

# 全港湾第95回定期全国大会開催 新執行部を選出



東京都大田区蒲田  
5の10の2  
**全日本港湾労働組合機関紙**  
(組合員の購読料は  
組合費の中に含む)  
発行責任者  
松永英樹



第九五回大会の開催にあたり、真価を問う大会としまして、執行部を代表して鈴木誠一、全港湾組合員の団結をもち、中央執行委員長は「全港湾 すべて日本労働運動の再構築を、第95回定期全国大会は全港湾 目指し、実現させる全港湾定 期全国大会として成功させま しょう」と述べ、全港湾が 先頭に立って運動して行くこ との重要性を訴えかけた。

全日本港湾労働組合の第九五回定期全国大会を、九月十一日、十二日の二日間、天童ホテルにて開催した。全国から大会代議員八八名、中央本部役員一八名、傍聴者を含め二四六名が出席、議長団は畠中商博代議員(東海)、坂本幸治代議員(関西)が務めた。役員については投票の結果、関東地方出身の鈴木誠一氏を中央執行委員長に、九州地方出身の松永英樹氏を書記長に選出、新執行体制を確立した。

## 2024・25年度全港湾役員

中央執行委員長	鈴木 誠一 (関東)
副中央執行委員長	鈴木 龍一 (日本海)
"	畠山 昌悦 (関西)
"	橋崎 正伸 (四国)
書記長	松永 英樹 (九州)
中央執行委員	川村 俊 (北海道)
"	二本柳英樹 (東北)
"	千葉 隆志 ( " )
"	面谷真奈樹 (日本海)
"	城光 茂 ( " )
"	古田 将也 (関東)
"	内田 剛 (東海)
"	河野 照宜 (関西)
"	樋口 万浩 ( " )
"	元木 啓次 (四国)
"	山中 直樹 (九州)
"	諸見 力 (沖縄)
会計監査委員	大賀 隆幸 (関東)
"	大野 裕康 (東海)
顧問	真島 勝重 (前中央執行委員長)

〇二五年度の運動方針を満場一致で確立した。第二議題 二三年度決算報告、会計監査報告、二四年度予算 決算及び会計監査報告については、大きな問題点はなし。組合費納入人員については、一〇七人増の八、一六三人とし予算編成したい。二四年度組合費については一、二七〇円で据え置き、春闘闘争カンパについては一、〇〇〇円(全国港湾カンパ含む)としたい、共済基金については昨年同様月額五〇円とした。闘争資金についても昨年同様月額五〇円とした。 第一議題 主なたたかいの経過と総括、運動方針 運動の基調については変更なく「一、新自由主義による規制緩和、競争社会に反対し、貧困をなくし、格差社会を是正する。二、港湾産業、運輸産業における産別運動を強化するとともに、企業の枠を超えた地域運動、国際運動と連帯し、中小企業労働者と非正規雇用労働者の立場から労働運動の再建をたかかう。三、戦争法制の早期廃止を求め、反戦・平和、社会保障の充実、人権擁護、脱原発と環境保護をたたかい、働く者のための政治を実現する。四、大衆路線にもとづいて職場闘争を強化し、活動家を育成し組織の強化拡大を勝ち取る」を確認。そして、代議員・特別代議員から多岐にわたる活発な意見を受け討議をおこなった。最後に、二〇二四・二



議長団：坂本代議員(左)、畠中代議員(右)

五春闘に向けては、第二回中央執行委員会より、春闘要求額、産別制度政策要求についての検討をおこなっていくとしている。春闘方針については、一月三十日、三十一日に開催する中央委員会で決定していくとした。そして、組織の強化と拡大に取り組んでいくとし、原案どおり可決した。 第四議題 年間ストライキ権の確立 スト権投票の結果、提案どおり、年間スト権を確立した。 全国闘争報告 東北地方秋田支部藤川純委員長、名古屋支部日興サービス分会の上條清隆分会長が闘争報告をおこなった。 一三五名を表彰し、東北地方塩竈支部の千葉隆志氏が総代を務め記念品を受け取った。



# 全港湾在籍30年組合員表彰を受けて

## 東北地方塩釜支部 千葉隆志



員となりました。組合員6年後に転機が訪れ、亡き盟友同志との出会い、沖縄平和行進の参加を経て全港湾運動を志すこととなりました。

青森時代10年間運動して参りましたが当時は全港湾運動の知識もよく知らず、に無我夢中に突っ走ったように思います。全国青年対策会議や交流集会では朝まで交流し夢を語って、正社員と同時に全港湾組合

全国の仲間の皆様、厳しい中、本当にご苦勞様です。この度全港湾在籍30年表彰を受けることとなりました東北の千葉です。私は1991年に当時の日通の子会社、現NXに入社、正社員と同時に全港湾組合

にも失敗を恐れず我武者羅に運動して頂きたい。北海道から沖縄まで沢山の仲間と交流し横の繋がりが出来るのは全港湾という素晴らしい組織だと改めて確信しました。

その後分會三役、支部四役就任し間もなく東日本大震災が発生、分會3名支部6名の尊い仲間の命が奪われました。こんなに悲しく辛い体験は絶対にしてほしくありません。

現在も全国各地で地震や水害等多くの災害が発生しておりますが「命どう宝」をしっかりと肝に銘じ自分の命は自分で守るようにして頂きたい。また改めて当時全国の仲間達の支援、配慮があったからこそ今日まで復旧することが出来ました。全国の組合員の皆様ありがとうございます。

そして現在東北地本の役員として運動することになりました。支部、地本、全国的にも問題が山積しておりますが組合員一人一人が現場で必死に頑張っていることを絶対に忘れることなく今の自分に何が出来るか、何をしたら良いか、真摯に向き合い運動して参ります。



# 全国闘争報告

## 東北地方秋田支部

### 藤川 純



今年5月、能代運輸は海貨で上げた貨物を野積み保管しているヤードから港湾運送事業許可のない運送業者に、能代運輸の所有するローダーでタンクに積み込みする作業を行わせていました。

この件について後日運輸支局・運輸局に行き秋田支部として抗議行動を行ってききました。

その時の回答を聞いてき

したが、本局、本省からの回答が下りて来ないと返答ができないとの回答でした。

能代運輸の港湾運送事業の秩序を脅かす行動を断じて許すことはできません。全国に波及する大きな問題と常に認識し秋田支部一丸となって阻止する行動を行ってまいります。

今後も全国、中央本部の皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

## 東海地方名古屋支部

### 上條 清隆



8月6日に開催された事務折衝で、日港協検査部会は「指定事業者には検査業務に携わる人間はいない」と回答しました。全国港湾指定事業者本部会は回答の修正を求めましたが、修正は無く、協定不履行を宣言し、具体的対応策は内部検討の上、通知するつもりです。

8月6日に開催された事務折衝で、日港協検査部会は「指定事業者には検査業務に携わる人間はいない」と回答しました。全国港湾指定事業者本部会は回答の修正を求めましたが、修正は無く、協定不履行を宣言し、具体的対応策は内部検討の上、通知するつもりです。

しかし、一部の検査事業者が21春闘「覚書」・22・23・24春闘協定とその間積み重ねきた議論を無に帰すような行為を許す事はできません。引き続き皆様の熱いご支援、力強いご協力をお願いします。

最後に、私たち日興サービ

# 全国港湾第十七回定期大会開催 竹内委員長が就任 新執行体制、運動方針を確立

全国港湾は九月十八日、十では、真島委員長(全港湾)、高島九日、第十七回定期大会を愛小嶋中執(大港労組)、新妻知里豊橋シーパレスで開催した。全国港湾の大会について、出席者は総勢222名で、全港湾からは三十六名が出席した。来賓には港運同盟、ITP東京事務所、こくみん共済が出席、大会議長団は古澤代議員(日港労連)と尾崎代議員(全倉連)が務めた。

任期満了に伴う、役員改選

田書記長(全国港湾)、高島九日、第十七回定期大会を愛小嶋中執(大港労組)、新妻知里豊橋シーパレスで開催した。全国港湾の大会について、出席者は総勢222名で、全港湾からは三十六名が出席した。来賓には港運同盟、ITP東京事務所、こくみん共済が出席、大会議長団は古澤代議員(日港労連)と尾崎代議員(全倉連)が務めた。

任期満了に伴う、役員改選



「二〇二三年度の主な取り組み経過(案)」、「二〇二四年運動方針(案)」、「産別ストライキ権の確立について(案)」等すべての議案を可決、二〇二四年運動方針を確立した。そして、最後に大会宣言並びに特別決議を採択し大会を終えた。

二〇二四年秋末闘争については、秋の中央行動を十一月六日、七日に予定し、二五春闘については、中央委員会を二月四日、五日に開催し、春闘方針を決定、二月十二日に第一回中央港湾団交を予定したいとした。

# 大会参加者の声

## 北海道地方本部釧路支部

### 上島 拓



第95回定期全国大会に参加された組合員の皆様お疲れ様でした。また、全国各地ひと



い残暑の中、厳しい環境で仕事に従事され労働運動に取り組まれている全港湾の仲間の皆様にご挨拶を申し上げます。山形県天童市で行われた第95回定期全国大会は北海道から代議員3名と特別代議員3名の計6名で参加をしました。資格審査での報告を受け計246名での大会が開催し、二日間

2025年5月をもって石炭船の入港が終了し、そのあとは残りの在庫を整理していき2027年3月末ですべて終

で36名の質疑がされました。北海道としても、非効率火力発電所休止問題について留萌支部の状況の報告をさせて頂きましたが、北海道電力は

2027年3月末に奈井江発電所と砂川発電所の二か所を閉鎖すると発表し、その影響として、留萌支部組合員の雇用が危ぶまれています。また、

## 東北地方青年婦人部部長

### 夏堀 陸



了します。この問題については、全国各地で働く仲間皆さんにも同じ事が言えますが北海道としては川村委員長にご尽力いただき、今後行政交渉を取り組む運動とともに政策推進議員懇談会を活用しながら雇用と職域の確保を求めていきます。また、

ら建設地を見たので、大阪カシノ問題反対の取り組みも青年部として活動していきたいと思いましたが、議長が東北青年部の発言を認めてくれた為、東北青年部を代表して書記長の渡邊が発言しました。内容は、中央・各支部への理解とご協力の感謝、昨年度の活動、青対・沖繩平和行進に参加した感想、フクシマ連帯キヤラパンの呼びかけをさせていただきました。フクシマ連帯キヤラパンは東北青年部で力を入れている活動なので、

今回東北地方で定期全国大会が開催される事となり、東北地方からは青年婦人部四役、各支部の青年部長が参加をしました。今回私たちは会場係として、この定期全国大会に入りました。スムーズな会場整備ができたかは分かりませんが、1人1人の仕事は果たせたと思うので良かったと思います。会場整備以外は傍聴として参加しました。質疑応答を聞いて思ったのは、

指定港問題、大阪カシノ問題、脱炭素問題など各地方で様々な問題があることを再確認しました。特に大阪カシノ問題は、青年対策交流集会で勉強し、自分の目で展望台か

各地方の様々な問題が、今後一日も早く解決していくことを強く願っております。今大会を通じ、鈴木誠一委員長を先頭に「一枚岩」となり団結を強め、急速に変化する時代の流れの変化を鑑みて、全港湾の歩んだ歴史を踏まえつつ、労働運動からの失敗を教訓とし成功に向け、常にチャレンジしつづけ「たかかう」全港湾であると確信しています。

## 日本海地方七尾支部

### 秋元良和



たって頑張る活力をもらいます。私たちが1票は微力ではありませんが、組合員が同じ方向を向いていけば大きな力になると思えますので、そこを意識しながら活動していきたいと思

まず初めに、能登半島地震の際には義援金の取り組みや各省庁への申し入れなど素早い対応をしていただき感謝しありがとうございます。全国の皆さんがどうもありがとうございました。今回初めて全国大会に参加させていただきます。初日の大会前日の懇親会では緊張と不安でいっぱいでしたが、青年部長をしていただいた時に活動させてもらった方が何名かいた事で安心が生まれたのと同時にみんな頑張って組合活動をしていった事が、今期から自分が執行委員を務めるにあ

思います。今回初めての参加地における労働者の置かれていた立場を皆さんの議論を通じて知り、各地方の闘争経過報告など聞かせてもらいいろいろと勉強になりました。私は主に横浜港にて海上コンテナトラックドライバーの業務に従事しています。大会期間中、料金に関する話がありましたが、トラックドライバーの賃上げ原資となる適正運賃を収受出来る環境の整備が重要で、近年の燃料価格高騰、首都高速の一律料金からの車種別・距離区分による実質的な大幅値上げなど早急な適正運賃が収受出来る環境にしなければいけません。トラックドライバー不足が叫ばれる中、京浜港では女性海



## 関東地方横浜支部

### 高頭宏幸

第95回定期全国大会に出席された全国の仲間皆さん、そして準備、運営をして頂いた東北地方の皆さんお疲れ様でした。私は関東地方横浜支部執行委員の高頭です。緊張感のある活発な議論や全国各

第95回定期全国大会に出席された全国の仲間皆さん、そして準備、運営をして頂いた東北地方の皆さんお疲れ様でした。私は関東地方横浜支部執行委員の高頭です。緊張感のある活発な議論や全国各

第95回定期全国大会に出席された全国の仲間皆さん、そして準備、運営をして頂いた東北地方の皆さんお疲れ様でした。私は関東地方横浜支部執行委員の高頭です。緊張感のある活発な議論や全国各

## 東海地方衣浦支部

### 市川健太



9月11日から12日にかけて山形県天童市天童ホテルにおいて全港湾第95回定期全国大会が開催されました。

石炭問題やお手伝い特例の取り組みなど自分の港でも深刻な問題になっている事なので話聞いて参考になりました。また、その他色々な話が聞けて新鮮で興味深い時間過ごせたと思います。ありがとうございました。

石炭問題やお手伝い特例の取り組みなど自分の港でも深刻な問題になっている事なので話聞いて参考になりました。また、その他色々な話が聞けて新鮮で興味深い時間過ごせたと思います。ありがとうございました。

山形県天童市天童ホテルにおいて全港湾第95回定期全国大会が開催されました。

私は今回、全国大会に初めて参加させて頂くこととなり大変、不安のなかでの参加となりました。また、大会の規模の大きさや参加者の人数、活発な議論にもただただ圧倒

(4面から続く)

でおきている問題や活動を聞き改めて全港湾という組織の重要性を感じました。この全港湾という組織の一員

東海地方名古屋支部

藤井将俊



山形県天童温泉にて全港湾第95回定期全国大会に9月11日から12日参加させていただきました。まずもって受け入れをしてくださった東北地方の皆様にお礼申し上げます。

私は定期全国大会の参加は何年度になるか数えたことは

関西地方大阪支部

國分仁昭



私は33年間全港湾にお世話になり、その時々歴史を経験させて頂きました。私が組合員になった頃は闘争期から安定期に入った時代ですが、

現在はどうでしょうか？個人の権利が優先され、一方で資

本論に流され人員補充や十分な賃上げも要求すら出来ない状態になっており、いきなり交渉基準が昨年実績というある意味企業内組合的発想になっていくのが現状です。

今回の大会で気になったのが、各個人の大会に対する希薄さ、大会に参加する事が目的になってしまっており、一年の総括、そして修正、その上で方針立案が本目的のほうですが、ある意味各々が熟考していないのが、大会での代議員の意見の少なさをみれば、歴然としているのではないのでしょうか。勿論中央総括や方針が立派であること

は間違いではないですが、真剣であればこそ何か問題が出てくるはずですが、議論も出来ない組織は衰退につながりま

基本、ボトムアップの上でトップダウンは有りませんが一部の権限者によるトップダウンであれば批判している他

一般組合員も役員も来年の大会に向け、百家争鳴で中身の議論を繰り広げることが期待して退任していく一兵卒としての最後のお願いで締めさせていただきます。

九州地方関門支部

田中啓貴

四国地方高知支部

原園太浩



自支部でも基本に立ち戻り真剣に取り組みたいと考えてはならないと再認識することができました。

2日目の質疑応答で四国地方から労働者供給事業について、脱炭素政策の問題、本四

執行部を代表して鈴木中央執行委員長の挨拶から始まり、来賓として全国港湾から真島委員長をお招きし挨拶をいただきました。

議題では、松永書記長から23年度経過と総括24・25年度運動方針(案) 決算報告がありました。

提案に対して各地方からたくさん質疑があり、答弁をする松永書記長のお話は非常に勉強になる事ばかりでした。このような経験から各地方についても学んでいきたいと思いをいたしました。

在籍30年組合員の表彰の紹介があり、これから自分自身も1日1日を大事にして全港湾の組織拡大、組合活動に参加していきたいと強く思いました。役員改選ではこれから全港湾の方針が決まってくるので、各地方代表の投票す

えたいところもあると思うので微力ながらも自身の働

最後になりましたが、議長団をはじめ定期大会の準備、運営に携わっていただいた皆さま大変お疲れ様でした。

九州地方関門支部

田中啓貴

田中啓貴



全港湾第95回定期全国大会

石川重宗

石炭荷役の問題、インランドポートなど様々な全国で起きている問題に対し議論が行われておりました。

私自身、全国大会に参加するのは2回目ですが、自身の勉強不足もあり、議論に対して理解が至らぬ事もありましたが、改めて全国の仲間達が集結し、議論を行い、



9月11日、12日に山形県にて開催された定期全国大会に沖縄より参加させて頂きました。大会では、指定事業体、

を実感しました。今大会では議論を行うことができませんでしたが、沖縄も辺野古などの基地問題をはじめ特定利用港湾など様々な問題を抱えております。沖縄だけの問題として捉えるのではなく、このような全国大会の機会に発信することで、全国の仲間と共有することにつながり、それが問題解決に向けて戦えるのではないかと大会に参加し感じる事ができました。ありがとうございました。

最後になりましたが、大会議長団をはじめ、役員、大会に参加された皆様、大変お疲れ様でした。自身にとっても大変勉強になった大会でありました。ありがとうございました。

# 退任役員あいさつ

## 前中央執行委員(東北)

### 新妻 秀樹



このたび第95回定期全国大会で中央執行委員を退任しました東北地方小名浜支部の新婚です。コロナの影響で大会の順番が変更になり思い出のある天童で退任となりました。山形県天童市での開催で交通の面では大変不便もあつたと聞いていますが、われわれ労働組合は反戦平和を訴えてきました。これからも訴えて行かなければなりません。産別運動を強化し安心して働ける職場づくりのために全国の仲間と共に頑張っていきたいと思います。東北の皆様のご指導、ご協力を頂き次に繋ぐことができました。東北地中は

秋田港の新規参入問題、運輸業者が公正取引委員会へ独占禁止法違反で訴える動きがあり、これに対し全国から運輸業者に対しての抗議行動を行いました。また、東日本大震災での義援金や福島原発事故後の原発反対福島連隊キャラバンなど全国の仲間の協力を頂いてきましたし今後よろしくお願ひします。

現在、港湾を取り巻く環境前足を図れたことは、私自身は、様々な形で厳しさが増している。特に地方港はコンテナ・バルク貨物共に国策と大手港運事業者の主導する港政策により、年々取扱量が激減している現状があります。退任のあいさつに代えて「勇往邁進 全港湾」この

# 新任役員あいさつ

## 中央執行委員(東北)

### 千葉 隆志



山積しております。地元東北でも能代運輸による新規参入問題、同じく地方港では石炭火力の休止問題、バルクカーゴ減少問題、六大陸ではコンテナターミナル自動化による人員問題、休職問題、この度の全港記長に選任され、この度全港第95回定期全国大会で中央執行委員に選任された東北地中の千葉です。最初から不信任一票が投票されたことに

は正直驚きましたが現実をしっかりと受け止めていきたいと思ひます。次世代に明るい港湾を作り上げ手渡すことが責務であると思ひます。中央執行委員選任されたばかりでまだまだ若輩者ではありますがこの港湾情勢を少しでも魅力あるものにしてほしいと思ひます。東北そして全国の皆様と情報共有し、組合員一人一人が安心して働ける職場づく

## 中央執行委員(日本海)

### 城光 茂



天童市で開催された、第95回定期全国大会で中央執行委員に信任されました、日本海地方伏木支部出身の城光【じょうこう】です。最初にこの文を借りて、1月1日に発生した能登半島地震では、日本海地方本部に対して、全港湾の仲間からいただいた応援メッセージや義援金(カンパ)の取り組みは、被災した組合員には、勇気と元気をいただきました。たいへん感謝申し上げます。

今回の大会においても青年部層から諸先輩方々と多くの代議員から、厳しい現状報告

## 前中央執行委員(日本海)

### 佐藤 正巳



退任にあたり、ご挨拶を申し上げます。私は2期4年の皆さんと問題、課題の共有

の間、中央執行委員の任を務めさせて頂きました。今回の第95回定期全国大会において、一身上の都合により、退任させて頂いたこととなりました。

この間、全国の多くの仲間

## 定期全国大会のひとコマ



全港湾第95回定期全国大会

全港湾

# 大会代議員の発言

大会において活発な質疑がおこなわれ、各地方の代議員方々より多くの意見が出されました。共同デスクでは、代議員からの発言をできる限り伝えていこうと、紙面の限られたスペースではあります。分担をおこない、発言を要約して掲載していくこととしました。各地方から寄せられた報告をもとに北海道、東北、日本海、東海、関西、四国、九州の地方からの発言を掲載します。

## 北海道

留萌港運分会の現在の報告をさせていただきます。まず現在の石炭の報告としましては、2027年3月をもって砂川、奈井江の火力発電所が停止。本来は2026年5月をもって火力発電所向けの輸入炭終了でしたが2025年5月をもって終了と変更になりました。その後は旭川の本製紙向けの年間8万トンぐらいの扱いになります。

小麦は今年度秋口に、500トンのオーダーが入っており、それが終わり次第現在の施設内での小麦の集荷が老朽化のため終了になります。現在今年の4月から新しいサイロを建設中で来年3月に完成し、4月に稼働開始の予定です。当社では2024年度10月に入札が行われるので入札次第で管理業として行うため、それに向けて準備中とのことです。新事業について今年3月と8月に説明がありました。いくつか案はありますが、その中でも進んでいる事業はウニの陸上養殖で、現在北海道大学とチームを組んで研究しており、年内にはテストまで行う予定となっています。

## 東北

24春闘ストライキについて。日曜日の不稼働日は全港から言ったのか？地方港と6大港を分けて指示した理由は何か？行動内容を分けて行う理由。そもそもストライキは分けて行うものではない。全体で平日に行えば諸課題もクリアできると思う。今後のストライキのありかたについて検討願います。

地方の内航フェリー化が加速している。外航に比べ料金が安い。地方事業者には適正な価格転嫁や料金交渉が難しい。本部としても行政交渉者に還元できる取り組みをお願いしたい。

昨年、青年対策交流会議で

## 日本海

第95回定期全国大会日本海地方からの発言について

日本海地方からは主に能登地震の際のお礼、24春闘について、育児介護休業の拡充を協定化について、定年延長について、特定利用港港について、トラックの海コン安全対策会議について、ソーラス内の無線について発言がありました。能登地震に関しては、当該の支部よりお礼と現状報告があり、中でも七尾支部からは岸壁の復旧まで2年かかること、石炭火力が稼働を再開している事、全港の対応に皆感謝していた事が報告されました。また震災の際、一部のソーラス内の無線が防犯ではなく防犯だった為、鳴らなかつた等の報告もあり今後、南海トラフ等が想定される中、組合員の命を守る為緊急に確認を取る必要があると感じました。

また24春闘に関しては大幅賃上げと、産別最賃問題が1

## 東海名古屋

日本の人口は毎年59万人減少しており、全港の組織率も年々減少しています。組織率が減少することで、組合費の値上げや運動の制限、専従者数に影響を及ぼすので、現状把握からの今後の展望の検討を。

組織の強化と拡大について、全港港組織の在り方議論が乏しく、組織論としての計画性・ビジョンが一切視えて来ない。今後の組織の在り方、計画性を。

港湾政策について、ロットルダム港（RWG）視察の記事から自動化ターミナルでは生産性の向上が見込まれないと分かるが、人手不足の足音は聞こえて来ており、2040年までに港湾労働者は現在の約5万人から約4万人へと1万人減少すると試算されている。この状況に順応し学習する努力をしなければならぬ。労働者不足によって安易な自動化に手を出すと未来は暗く、港湾労働者も犠牲にな

## 関西

丁目一番地だと始まった春闘が、いつの間にか月一不稼働日が最重要課題にすり替わっていったように感じ、組合員に説明の出来ない春闘だったと思う。答弁の中にも交渉の在り方の中で、代表者会議等開けなかつた等の反省点も挙げられていたが、是非25春闘では今回の反省が生かされる春闘にしていただければ、よろしく願います。

24春闘においては数年ぶりの大幅な賃上げであったとされているが、我々の運輸産業で働く仲間の実情としては、昨年並みか多少の賃上げで妥結している。各企業は、燃料の高騰・高速道路料金の値上げ・車両自体の値上げ等でコスト増で労働者に還元できる状態ではないというのが実情である。標準的な運賃がより実効性の高いものにし、賃金に反映するような取り組みが必要である。

建設支部には釜ヶ崎で日雇い労働者の労働条件向上のために活動を続けています。末端の下請け労働者が標準的労働費で働ける職場を創っていくことは、建設だけではなく運輸・港湾にも共通課題であると考えています。国交省が法律に明記された施策を行うよう中央本部でも運動をお願いします。

来年開催の万博についても多くの労働者と資金が使われています。それより、1月に発生した能登地震の復興・復旧のほうに優先すべきであると考えます。しかも、万博会場にあたる場所ではメタンガスが発生し爆発事故が起きました。再度、危険なところであるとお願いしたいと思う。また、来場者の交通手段も少なく交通渋滞が予測されることにも付け加えて報告したい。その後に予定されているカシノについてもギャンブル依存症について危惧しているところである。このようなことから全港湾としても絶対に反対すべきであると思えます。

政治闘争について発言させていただきます。兵庫県知事が進んでおり公的年金引上げ

も断固反対していく必要があると思えます。これからも今までと同じく適正な運賃の確立、公的年金の受給年齢65歳の維持、助成金などの資金援助を国や自治体に求めて行く必要があると思えます。

先輩たちが築き上げた闘いを検証し今の時代にアレンジする。しかし怯むことの無い数少ない闘う産業別労働組合を貫く事で、あらゆる労働者の受け皿になる闘いが組織拡大につながると思えます。各労組や団体の強化の先頭に立つ全港湾の形成を各地方・支部が強化する。その先陣を中央本部に担って頂きたく提案いたします。

政治と金の問題をはじめ政治家たちの不祥事等が続くなか、全港湾として労働者目標に立つことができる候補者を推薦していく運動を展開していききたい。また、大阪万博についても立憲民主党の議員と懇談し現状を把握しながら進めていく事としていく。

RTGの遠隔操作の説明を受けましたが、組合との合意が無いのに工事を進めるとはどういう事かと疑問に感じました。また、KICTメカターミナル構想についても当初、本船の接岸の変更の説明が明でした。ターミナルパス



の移動及びメカターミナル構  
想については今後の動向に注  
視していく必要があると思い  
ます。

### 四国

労働者供給事業について  
「労働者供給事業許可証」の  
交付を受けた。

24春闘では、中央団交の賃  
金大幅値上げから日曜日の休  
日に焦点が変わったこと、経  
緯など組合員に説明しづらい  
経緯があった。24春闘の総括  
をしっかりと来春闘に生か  
してもらいたい。

三島川之江港の指定港化に  
ついて、昨年末より急速に指  
定港化が進んでいる。四国地  
本として三島川之江港運協議  
会との意見交換、国土交通省  
や四国運輸局への要請行動な  
どを取り組んでいるが中央本  
部も協力して取り組んでもら  
いたい。

石炭火力発電所の休止に  
ついて、各所への要請、会社  
との交渉時に情報を求めても  
「何の情報もない」との事。  
組合員から先行き不安の為、  
「転職を考えている」との声  
が出ている。

本四架橋の問題について、  
四国地本と徳島支部で港湾雇  
用対策委員会、本四高速意見  
交換会、四国交通労働協、港湾  
会員部会、四国運輸局要請行  
動など活動をしているが何の  
解決もみいだせていない。中  
央本部も引き続き指導と支  
援をお願いしたい。

### 九州

料金の収受について、海外  
の事業者は物価高等の国内情  
勢は関係ない。  
むしろ、値下げを言ってくる  
状態である。

事前協議時に「港湾運送事  
業法に基づく料金を遵守しま  
す」の記載等もしているが、  
料金が支払われているか、結  
果がわからない。それ以外に  
何かアドバイスがあればよろ  
しくお願ひします。

カーゴワイヤー切断等の事  
故時は国内法が適応されずそ  
れ以降の作業時に安全に対す  
る担保がない。  
不安なままの作業となる。  
国交省、厚生省などでの安  
全確保が出来るような法整備  
が出来ないのか？

## 告知板

北海道地方本部

8月22日

執行委員長 川村俊、副執行  
委員長 秋山光明、書記長

中西一、書記次長 川奈部  
若之、執行委員 会田英勝、  
松浦芳典、富士俊和、上島  
拓、三浦博、会計監査委員  
中出将史、加々谷究

東北地方本部

8月29日

執行委員長 二本柳英樹、副  
執行委員長 藤川純、書記長

千葉隆志、書記次長 佐々木  
信英、執行委員 貝吹拓章、  
吉田一夫、寶龍一、長南安  
典、阿蘇誠、舟生剛、大門智、  
会計監査 阿部直樹、松下竜  
也、特別地方執行委員 新妻  
秀樹

東北地方ひたち支部

8月7日

執行委員長 大門智、副執行  
委員長 川崎文彦、高田能  
如、書記長 古内厚志、書記  
次長 須田信一、財政部長

木名瀬一、執行委員 飯村勝  
則、佐藤大志、磯崎健一、宇  
佐美貴康、井上信之、細貝真  
一、井坂雄太、川崎広太、西  
野隆、会計監査 松川佑太、  
藤田千尋

日本海地方本部

9月6日

地方執行委員長 鈴木龍一、  
地方副執行委員長 面谷真奈  
樹、城光茂、地方書記長 山  
賀茂、常任地方執行委員 岡

本克範、青山康治、下地真  
史、北村司、森口一男、鈴木  
秀一、地方会計監査委員 山  
田明彦、合林真吾

日本海地方新潟支部

8月25日

執行委員長 鈴木龍一、執行  
委員長代行 佐藤正巳、副執  
行委員長 岡本克範、山賀  
茂、和久井好一、書記長 那  
須野智広、執行委員 白根信  
慶、古橋祐司、野村篤、石井  
剛、花澤大輔、内藤大作、小  
林将司、会計監査委員 青木  
大樹、松田祐樹、青年部長

日本海地方伏木支部

8月24日

執行委員長 城光茂、副執行  
委員長 青山康治、中沖恒、  
書記長 小森徹也、執行委員  
寺林狂晴、山崎賢一、本川  
富久雄、飯沼圭大、杉江裕  
一、宇崎崎英治、柏正樹、高  
橋直之、櫻井晴城、会計監査  
菅池隆太、二口善行

日本海地方敦賀支部

8月18日

執行委員長 北村司、副執行  
委員長 藤田和憲、書記長  
山田明彦、執行委員 藤田康  
弘、百田聖治、辻弘成、園山  
優人、山本清人、松田大、前  
川聡史、会計監査委員 畑中  
裕貴、中島翔太

日本海地方舞鶴支部

8月23日

執行委員長 森口一男、副執  
行委員長 川端勇志、書記長  
合林真吾、執行委員 北原

優、谷口由馬、小嶋卓也、会  
計監査委員 神社正悟、仁谷  
田明彦、合林真吾

日本海地方境港支部

8月23日

執行委員長 鈴木秀一、副執  
行委員長 足立隆太、書記長  
仁井創哉、執行委員 築谷祐  
貴、伊藤桂悟、小林祐馬、春  
名雄太、大野憲二、会計監査  
委員 青木昭吾、竹内隆久、  
書記 石橋由美

日本海地方七尾支部

8月18日

執行委員長 下地真史、副執  
行委員長 干場敦、書記長  
沢田祐磨、執行委員 竹田直  
也、秋元良和、小堀一彦、達  
直晃、会計監査 黒澤誠、小  
竹隆晴

関東地方本部

9月6日

執行委員長 中村直樹、副執  
行委員長 川上省二、河村法  
和、丸山義宏、書記長 古田  
将也、書記次長兼財政部長  
木村貴弘、執行委員 藤田眞  
二、吉田直樹、横山伸彦、高  
山卓也、中山雄飛、飯竹和  
則、原田敬、猪狩慎弥、石原  
茂治、桂史浩、小林清二、酒  
井友樹、佐藤健寿、高頭宏  
幸、鶴岡勇輔、長岡和美、寶  
納雅行、山本弥、高木涼、横  
村元彦、遠藤りさ、特別執行  
委員 鈴木誠一、大賀隆幸、  
会計監査委員 山岡有衣、長  
谷川安次

関東地方横浜支部

8月30日

執行委員長 千頭和達也、副  
執行委員長 佐野正弘、篠原

執行委員長 中村直樹、副執  
行委員長 川上省二、書記長  
木村貴弘、執行委員 猪狩慎  
弥、石原茂治、桂史浩、小林  
清二、酒井友樹、佐藤健寿、  
高頭宏幸、鶴岡勇輔、長岡和  
美、寶納雅行、山本弥、特別  
執行委員 鈴木誠一、大賀隆  
幸、荒井一美、会計監査委員  
長谷川安次、齊藤泰明

関東地方東京支部

8月30日

執行委員長 古田将也、副執  
行委員長 藤田眞二、書記長  
河村法和、書記次長 吉田直  
樹、執行委員 高山卓也、横  
山伸彦、中山雄飛、原田敬、  
菅原康、飯竹和則、会計監査  
委員 相原周二、森川健一、  
東海地方本部

9月5日

執行委員長 内田剛、副執行  
委員長 千頭和達也、山中商  
博、書記長 大野裕康、執行  
委員 中條隼人、榊原崇、遠  
矢進一、六藤佑允、会計監査  
委員 原田雄司、込山一

東海地方清水支部

8月18日

執行委員長 内田剛、副執行  
委員長 太田尚志、小越堅  
司、藤浪雅也、書記長 遠矢  
進一、書記次長 込山一、分  
會長 加藤司、西谷岳起、中  
村元彦、藤城理充、後藤怜  
音、小林義政、増田智弘

東海地方田子の浦支部

8月18日

執行委員長 千頭和達也、副  
執行委員長 佐野正弘、篠原

みちる(財政)、書記長 原  
田雄司、書記次長 佐藤史  
典、執行委員 八塚一真、原  
田和彦、金森一貴、会計監査  
委員 杉山裕彦、山本浩也

四国地方本部

9月1日

執行委員長 橋崎正伸、副執  
行委員長 菅剛正、書記長  
元木啓次、執行委員 吉成誠  
司、中土井寛、沖隆弘、高橋  
利彰、竹田英弘、原園太浩、  
特別執行委員 西郷信雄、会  
計監査委員 糸川智也、来  
見一生

九州地方長崎支部

8月31日

執行委員長 小野圭一朗、副  
執行委員長 安部政治、宮崎  
功大、書記長 松崎大悟、執  
行委員 濱田慎也、村岡宏一  
郎、小山栄次、今村和史、杉  
井上孝信、三原陵、岡田信  
昭、山本裕督、高野好司、三  
旗、吉田成治、特別執行委員  
福田康博、福江浩二、会計監  
査委員 坂本幸治、松本栄二、  
久保田稔、南修三、廣渡信  
一、奥武士、田中啓貴、中江  
查 吉末大悟、小川内浩  
林進、日野隆文、大野善充、  
地、竹ノ上卓也、顧問 山田

九州地方福岡支部

8月30日

執行委員長 法本健吾、副執  
行委員長 津々見英一、書記  
長 山田憲司、執行委員 守  
行委員 濱田慎也、村岡宏一  
郎、小山栄次、今村和史、杉  
井上孝信、三原陵、岡田信  
昭、山本裕督、高野好司、三  
旗、吉田成治、特別執行委員  
福田康博、福江浩二、会計監  
査委員 坂本幸治、松本栄二、  
久保田稔、南修三、廣渡信  
一、奥武士、田中啓貴、中江  
查 吉末大悟、小川内浩  
林進、日野隆文、大野善充、  
地、竹ノ上卓也、顧問 山田

九州地方鹿児島支部

7月26日

執行委員長 南浩二、副執行  
委員長 下村広、書記長 酒  
匂清、執行委員 荷方学、竹  
田淳一、西元浩二、永濱直  
人、遠藤辰也、下高原雄人、  
特別執行委員 西郷信雄、会  
計監査 大平陽介、平中雅和

### 共同デスク一同

- 川奈部若之 (北海道)
- 佐々木信英 (東北)
- 下地真文 (日本海)
- 鶴岡勇輔 (関東)
- 市川健太 (東海)
- 松本栄二 (関西)
- 竹田英弘 (四国)
- 栗崎康幸 (九州)
- 金城正博 (沖縄)
- 松田里枝 (本部)